

平成30年10月11日（木）
松山全日空ホテル

まず、先般の平成30年7月豪雨、その後の度重なる台風や、北海道胆振東部地震に伴う災害によりお亡くなりになられた方々に心からお悔やみ申し上げるとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。

それでは、平成30年度全国商業高等学校長協会秋季総会・研究協議会の開催に当たりまして、一言お祝いを申し上げます。

今年、貴協会は創立70周年の佳節を迎えられ、本大会が、文部科学省からは、堀内昭彦 様、西村 修一 様をはじめ、全国から商業教育に携わっておられる多数の皆様のお出席を得て開催されますことを、大変ありがたく存じますとともに、御来県いただきました皆様方を心から歓迎申し上げます。

また、貴協会におかれましては、昭和23年の設立以来、商業教育の充実と教職員の資質向上に意欲的に取り組まれ、我が国の商業教育の発展に多大な貢献をされていることに対しまして、心から敬意を表する次第でございます。

さて、御案内のとおり、今年3月に告示された新高等学校学習指導要領では、生徒たちが自信を持って自分の人生を切り拓き、よりよい社会を創り出していくことができるよう、これからの社会に求められる資質・能力を確実に育成することが求められています。そのためには、学校が社会や世界と接点を持ちつつ、多様な人々とつながりを保ちながら学ぶことができる、「社会に開かれた教育課程」が重要とされており、今後は、平成34年度入学生からの新高等学校学習指導要領の実施に向け、特に、職業教育においては、人口減少社会の到来や、情報化、グローバル化の一層の進展などへの対応の視点から研究を進めることが必要不可欠です。

本県では、これまで、次代の地域産業を支える職業人の育成を目指し、行政や地元企業との密接な連携の下、商業科設置校が、「柑橘」「白いも」「石鎚黒茶」などの地元産品を活用した商品の開発を行っております。これらの取組がマスコミに取り上げられるなど、地域を担う人材が育っていることを、大変心強く感じています。また、地域通貨を通じた地域経済活性化の研究や、ボランティアガイド活動を通じた観光開発など、実践的な活動に取り組む中で、高校生が地方創生に貢献しており、今後は、これらの成果を引き継ぎつつ、新学習指導要領の実施に備えていくことが大切であると考えています。

今日から2日間、商業教育の諸課題について、研究協議等が行われると伺っております。皆様方の御協議から、商業教育やその地域が持っている潜在力を更に伸ばし、今後の商業教育の在り方について、一層の改善・振興の方向性が示されるものと大いに期待しております。

ここ松山は、日本最古といわれる道後温泉や松山城、近代俳句の祖正岡子規の記念博物館など、多くの名所・旧跡を有する「いで湯と文学のまち」として知られておりますので、ぜひこの機会に愛媛の歴史や文化に触れていただければ幸いに存じます。

終わりにになりましたが、全国商業高等学校長協会のますますの御発展と御出席の皆様方の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。